

平成 24 年度(2012 年度) 第 1 回とよなか都市創造研究所運営委員会
議事要旨

日 時 : 平成 24 年(2012 年) 12 月 28 日(金) 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分
場 所 : 豊中市役所別館 3 階 研修室
出席委員 : 新川委員長、赤尾委員、伴野委員、江口委員
事務局 : 本荘、福田、西、熊本、秦、仲谷
傍 聴 : 0 人

開会

部長挨拶、事務局員紹介

案件(1)平成 24 年度調査研究について(中間報告)

資料:資料 1 「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究()」

資料 2 「交通整備に伴う都市核の将来予測の調査研究」

資料 3 「少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明。以下、質疑応答のまとめ。

「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究()」について

委員

- ・この研究は市のイメージからブランドを作るという流れだが、地域ブランドは個性的なものから生まれ、それが逆に市のイメージを作りだすと側面もある。アンケート等で絞り込んでいく手法だけでは、潜在的な資源を見逃していないか懸念される。
- ・市民の評価を調査しているが、ブランドは外からどう見えているかという視点も大切。市民にはそれが見えにくいということもある。
- ・アンケート結果に、子育てという項目があったが、子どもと一緒に、ではなく、子どもを預けて出かけた母親が増えていると感じている。高齢者も同様である。そのような結果は出ているか。

事務局

- ・アンケート調査では、小さい子どもをもつお母さんは、「子どもと気軽に行ける店や遊び場があるといい」とあった。

交通整備に伴う都市核の将来予測の調査研究について

委員

- ・町丁目ごとに詳細に分析するのであれば、世帯構成、暮らし方、移動の理由など居住のパターンと開発の経緯との関係を調べることで、今後の都市開発、庄内地区の整備のあり方が見えてくるのではないかと。
- ・今は道路などインフラ整備という観点から都市計画を考えているが、それだけではなく学校などの文化資本の地域差を検討することも必要で、その資料となる調査を行ってはどうか。

- ・庄内は、以前とは雰囲気が変わったと感じていたが、数値で見えて納得できた。これまでにあった子どもたちの居場所が、なくなってしまうのではとってしまう。

「少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究」について

委員

- ・このテーマと前のテーマに共通するコメントとして、どちらも人口を統計的にとらえる量的調査にとどまっているが、「なぜ移動するのか」、その理由を尋ねる質的調査を加えると立体的に見えてくるのではないかと。
- ・例えば、中学受験のため校区を移動する、習い事に都合のよい地域へ移動するなど、最近では転居にためらいがないようである。反対に、お父さんの転勤では引越さないことも。
- ・データから、定年退職時に引っ越す人が多いのではと推測できることもある。このような状況を検証するためにも質的調査が必要。
- ・世帯そのものが成長、成熟していく。世帯モデルという視点を持ち、世帯の成長パターンによってどう居住し、移動するのかを追いかけてみると、豊中での住み方、少子高齢社会における住み方が明らかになる。

事務局

- ・今年度は統計調査で移動者のイメージをつかみ、それを基に来年度移動の要因などについてアンケートの実施を検討している。

案件（２）平成２５年度事業計画（案）について

資料：資料４「平成２５年度事業計画（案）」

事務局から資料に基づき説明

委員

- ・限られた費用で効果を上げる工夫をしてほしい。たとえば普及啓発にしても、市民の集まりがあれば職員が出かけて行って関連データを報告するなど、研究成果を広く情報提供してはどうか。
- ・人材育成についても、市役所全体の底上げという観点から、研究と関わりのある部署と日常的にコミュニケーションをもつなどが考えられる。

案件（３）「その他」

平成２４年度機関誌の発行について

資料：資料５「平成２４年度機関誌「TOYONAKA ビジョン 22」Vol.16 企画構成」

事務局から資料に基づき説明

委員

- ・地方自治体の連携というテーマだが、都道府県レベルの連携と市町村レベルの連携の違いや、連携ごとの課題などにも着眼すれば、なお良かったと思う。

事務局連絡

- ・次回第2回運営委員会は、2月21日に開催予定。また、第1回の議事録についてはホームページにて公開する。

閉会